

復 命 年 月 日	令和7年8月29日（金）
出 張 年 月 日	自 令和7年8月4日 至 令和7年8月6日 3日間宿泊有
用 務 地	三重県志摩市（志摩市議会）、愛知県一宮市（一宮市議会）、 愛知県半田市（半田市議会）
用 務	議会運営委員会 行政視察
て ん 末 (資 料 添 付)	<p>三重県志摩市：8月4日（月）14時00分から16時00分</p> <p>●議会運営について ①議会運営の効率化やICTを活用した議会運営について ②議会基本条例を基盤にした議会運営の透明性の確保について ③委員会の役割分担や議事進行の効率化について (志摩市泊)</p> <p>愛知県一宮市：8月5日（火）14時00分から16時00分</p> <p>●議会運営について ①常任委員会の運営について ②常任委員会の所管事務調査について ●主権者教育について ①学生を対象とした取組について (愛知県半田市泊)</p> <p>愛知県半田市：8月6日（水）10時00分から12時00分</p> <p>●議会運営について ①政策提言について ②事業評価について ③議会報告会について</p> <p>議会運営委員会各委員の所感については別紙のとおり</p>

《議会運営委員会 視察報告書》

【報告者】 香月孝夫

【調査年月日】 令和7年 8月 4日（月）～ 8月 6日（水）

【調査地】 ①三重県志摩市（4日） ②愛知県一宮市（5日） ③愛知県半田市（6日）

【調査目的】 ①議会運営について

②議会運営について

③議会運営について

① (1) 議会運営の効率化や ICT を活用した議会運営について

(2) 委員会の役割分担や議事進行の効率化について

〔三重県志摩市概要〕 面 178.93 km² 人口：45,114 人（令和6年4月1日現在）

財政規模：280 億 7,335 万円（令和7年度当初）



●所感 → 今後本市議会においても ICT の利活用が推進されることなどから、既に市の活用が推進されている志摩市議会の議会 ICT 取組みについて視察を行った。議会の効率化へ向けた目的や効果などについては、導入によって議会内のペーパーレス化が促進され、費用面や時間の効率化が図られ一定の目標達成に繋がっている。ただ、市民とのコミュニケーションツール（SNSなど）についての運用については今後検討を行っていきたいとの回答であった。議事録の電子化については、引用時のひも付けをどの範囲まで行うかについて検討がなされていた。本市における議会 ICT の取組みについては、全国の議会に後れを取らぬよう早期導入の必要性を強く感じた。

② (1) 常任委員会の運営について

(2) 主権者教育について

〔愛知県一宮市概要〕面積 113.82 km² 人口：387,496 人（令和 6 年 4 月 1 日現在）

財政規模：315 億 823 万円（令和 6 年度当初）



●所感 → 常任委員会の運営については、委員会のライブ配信が行われており、現在の配信技術を有効に活用された取組みであり、伊万里市議会においても条件を整えれば即実施が可能であると思われる。その他、主権者教育の取組みの一つとして、議場を開放し地元高校プラスバンド部による「議場演奏会」が実施されたほか、小学生の「議場見学」の取組みも今後の参考の一つとなった。他には、議会事務局を「議会局」と変更した点について、議会事務局職員の職責の重要性、議事機関の職員としての役割などを再認識し高める事を目的として改められたことは、一宮市議会の「やる気」の高さが窺えた。本市議会も、議員と事務局が一致団結し市民の負託に応えるための取組みの必要性を感じる。

③ (1) 政策提言について

(2) 議会報告会について

〔愛知県半田市概要〕面積 47.42 km² 人口：117,207 人（令和 6 年 4 月 1 日現在）

財政規模：490 億 8,000 万円（令和 7 年度当初）



●所感 →政策提言についてのおおよその流れとして、閉会中の委員会において調査テーマが決定された後に、幾度かの委員会が開催され視察や勉強会が開かれ調査研究が行われ提言がまとめられ、本会議における報告提言となる。政策提言に対する執行部の回答は求められていない。議会報告会の対面開催はされているもののマンネリ化（参加者は同じ方が多い減少気味など）傾向にあり「再考が必要」と判断されている。この点においては本市議会においても同様の部分もあり今後の課題でもある。他には YouTube 配信による報告会の取組みも過去に実施されたが、市民の生の声を受け取れないなどの課題となっている点も参考ポイントであった。半田市特徴の一つとして、対面方式の議場があげられる。これは議長を中心（議員と執行部の両方が見渡せる）に、議員席と執行部席が左右に分けられ、また演題（発言席）その中央に設置され双方向向けての発言となるような座席配列であり、この方式の議場は全国においても数少ない議場の一つであることから、今後も引き続きそのメリットやデメリットについて追いかけ、伊万里市議会の参考にしていくべきであると強く感じた。

議会運営委員会 行政視察 令和7年8月4日～6日
報告者：力武英一郎

「三重県志摩市議会」

1. 議会運営の効率化やICTを活用した議会運営について

議会運営の効率化でICTを活用されているとのこと。アイパッドを令和3年に導入されており議会資料等のペーパーレス化、議員のIT力が高まった、また議事進行が早くなった等一定の成果があるとのことでした。今後も市民への情報発信や災害時で活用の幅を広げていきたいとの事でした。伊万里市議会においてもICT化を今後進めていく上で大変参考になるものでした。

「一宮市議会」

1. 議会運営について

事前準備として、各常任、特別委員会において、開会後の休会日に正副委員長、執行部職員が出席する「正副委員長会」を実施されている。委員会当日と同じ流れで進められ、正副委員長が質疑しながら委員会当日の説明や資料の確認を行っているとの事でした。執行部としては事前にリハーサルとして回答の準備も含め活用できるのではないかと思いました。

委員会でライブ配信(YouTube)を行われています。議場、委員会室の音響映像設備の保守点検費用として年間で247万程の費用が発生しているようでしたが、市民の方に広く知って頂くこと、また議員も緊張感を持ち取り組める点は良いのではと感じました。

2. 主権者教育について

令和6年12月定例会閉会日に地元高校プラスバンド部による議場演奏会を実施されていました。また小学生を対象した議場見学会も実施されております。

特に小学生への議場見学は早い段階での市政への関心をもってもらうことや閉鎖的な印象をもたれがちな議会という場所を知って頂くためには良い試みであると感じました。

3. その他

令和7年4月より議会事務局を議会局に改められています。一宮市議会基本条例第20条で政策提言、政策立案を行うにあたり、調査研究や法制に関する知識が必要になるため議会局の機能や人事の充実強化を図ると定められており、今後この内容の実現のため調査・研究していくとのことでした。議会とともに組織体制の強化に努め政策立案機能を強化する意味合いがあり参考になりました。

「半田市議会」

1. 政策提言について

5月から6月に委員会の閉会中の調査テーマを決められ、6月から1月まで視察や勉強会を実施し、4月に提言のまとめ、5月本会議で報告・提言といった流れのようです。提言に対する執行部の回答は求められておらず、提言が事業化に踏み出すきっかけになっているとのことで参考になりました。

2. 議会事業評価について

9月に行う決算審査にあたり実施した事業の評価を行い、翌年度の予算に反映させるものであるとの説明でした。常任委員会単位の分科会として実施し評価対象事業を各委員会ごとに1つ選定し行われます。評価結果は市長に通知するとともに、ホームページで公開されています。これは市民に対して事業の内容やどのように予算が反映されているかがよくわかるものであり参考になりました。

3. 議会報告会について

全議員が出席し年2回の開催をされていたが参加者の減少、固定化などでコロナ禍よりユーチューブ配信による開催をされている。

ただ報告のみで市民の意見を聞くことができないといったデメリットがあるとの事でした。伊万里市でも同様な問題があり開催方法については慎重に検討する必要があると感じました。

4. 対面方式の議場

議長席より議員側と執行部側の両方が見え、舞台からは議員と執行部の両方に向け発言できる。まさに二元代表制を表す議場であると感じました。

志摩市議会・一宮市議会・半田市議会 視察感想

令和 7 年 8 月 14 日 塚本博幸

1. 志摩市議会

1) 議会運営の効率化や ICT を活用した議会運営について

議会運営の効率化として、①資料の共有化②迅速化③ペーパーレス化④災害時の活用⑤市民に開かれた議会、情報公開を掲げ導入。
その効果としては、①議会全般のペーパーレス化②各種資料の管理化③紙媒体の持ち歩きなし④議事進行が容易⑤個人端末との連携で情報共有⑥PC大画面で資料作成容易など成果を上げている。

2) 委員会の役割分担や議事進行の効率化について

- ・タブレット端末の導入として、①初期費用タブレット 200 万円/20 台②ランニングコストは、ラインタークス・サイドバックスのソフトを導入、仕様は 5G で通信費は 120 万円/年間。
費用は執行部が予算化し、議員は無償である。
- ・委員会での質疑通告性は、新型コロナ発生・慎重な審査・会議時間短縮の目的で令和 2 年から導入された。事前通知として、①議案熟読②質疑の熟慮。決して議員の発言を制限するものではない。
- ・予算決算常任委員会は平成 29 年 11 月 1 日、議会改革の一環として設置した。常任委員会と予算決算常任委員会への付託基準は特になく、全てをしつかり審査して諸手続きを経て終結する。

3) その他全般

- ・議会報告会や意見交換は、令和 4 年 8 月 25 日にそれぞれ廃止し、必要により開催する時は都度協議すると決議し、大きく舵をきられたとのこと。
* 平成 16 年 11 月 5 日、5 町が合併し志摩市が誕生した。
議会報告会や意見交換の実施に向け諸準備を進めるが、準備に見合う効果がなく、廃止するという重い決断に至ったとのこと。
- ・議会基本条例の見直しは、必要に応じ都度実施する申し合わせをしている。
尚、議員活動の根幹をなす基本条例の研修は、改選時期に実施しており 2 期生が講師役を務め、1 期生の指導と 2 期生以降の勉強会に充てている。

●感想；議会運営の効率化や ICT を活用した議会運営、議会報告会を廃止するとの決断、議会基本条例の研修会の在り方等、多くを学ぶことができた。また、今後、伊万里市議会のタブレット導入に向け、大いに参考になった。

2. 一宮市議会

1) 常任委員会の運営について

- ・予算審査も常任委員会と同じ流れになるが、当初予算を審査するために、閉会時間が長くなる傾向にある。
- ・決算審査は、常任委員会に所管する予算費目ごとに分割付託するため、決算特別委員会は設置していない。
- ・事前準備に特に注力している点として以下の回答があった。

各常任・特別委員会において、閉会後の休会日（決算審査については、委員会の 1 週間程度前）に正副委員長及び執行部職員が出席する「正副委員長会」を実施している。この正副委員長会では、委員会当日と同じ流れで議事を進行し、正副委員長が質疑しながら、委員会当日に予定している説明や資料等の確認を行っている。

➢委員長・副委員長は、委員会当日質問なしで議事進行に専念してもらう仕組みである。

2) 主権者教育について

- ・取り組みの経緯と実施した事例は、議長の発案で地元高校プラスバンド部にお願いして、閉会日の開会前に議場内で演奏してもらうことにより、広く市民に議場にお越しいただき、演奏後はそのまま本会議を傍聴してもらい、議会に関心を持ってもらうことを目的に実施した。

今後は、定例会や委員会開催尚の通常業務をこなしながら、市議会基本条例に記載されている「開かれた議会」を目指しながら、閉鎖的な印象を持たれやすい議会という場所を知ってもらう試みを通して、また他市の事例などを参考に当市議会にあったやり方を調査・研究して具現化して行きたい。

3) その他

- ・令和 7 年 4 月 1 日に議会事務局を以下の事由から「議会局」に改めた。事務局の設置根拠である地方自治法の本旨、事務局職員の職責の重要性、議長から任命を受けた議事機関の職員としての役割、これらを再確認し、高めることを目的に改めたものである

近隣の中核都市では、豊橋市、豊田市が同様に議会局に改めている。

●感想；所管事務調査については、伊万里市議会と大きな流れに変化はないものの、正副委員長会を開催し委員会重視の議会であることを知った。また、主権者教育については、具体的な施策は今後の検討課題とのことで大都市市議会の運営の難しさを感じた。

3. 半田市議会

1) 政策提言について

- ・政策提言を行うまでのステップ（1年サイクルの活動）
ステップ1；委員会閉会中の調査テーマ決定（5月～6月）
ステップ2；委員会を数回開催し、視察や勉強会を実施しながら
調査・研究（6月～1月）
ステップ3；提言まとめ（2月～4月）
ステップ4；本会議で報告・提言（5月）
*提言に対し、執行部の回答は求めず、以下を注視している。
 - ・提言が事業化に踏み出すきっかけとなる。
 - ・実施予定の次回について並走して後押しする。
 - ・必要に応じ、その後の一般質問等で進捗を確認する。

2) 議会事業評価について

- ・半田市議会議会条例に従い、議会は決算審査に当たって、市長等が執行した事業等に対し、評価を行う。以下に事業評価の流れを記す。
 - ① 評価対象事業を常任委員会毎に選定する。
 - ② 評価を行い、評価結果表を作成する。
 - ③ 評価結果を市長に通知するとともに、ホームページで公開する。
 - ④ 評価結果に対する執行部の取組み方針が報告され、その内容を市議会だよりに掲載する。

*議会事業評価に関する現状の課題

- 1.事業評価の精度を高めるために、担当部署からの説明や質問の機会を設けることとしたが、これにより執行部の負担が大きくなつた感がある。
- 2.決算審査と事業評価の違いがあいまいになつてゐる。
それぞれの目的を明確にし、議員の共通認識として臨む必要がある。

3) 議会報告会について

- ・議会報告会は、全議員が出席して年2回（予算審議後・決算認定後）の開催を基本としていた。
会の前半は各常任委員会から審査結果の報告、後半は参加者からの意見、提言を聴取し応答する。
➤①参加者が年々減少、固定化し広く市民の意見を聴く方策が必要
②議会報告会を開くことが目的なつてないか
③議会広聴はどうあるべきか
以上の経過を踏まえる一方で、新型コロナの感染拡大を受けて、対面

方式での開催を取りやめ、YouTube での配信に切り替えた。

➤①視聴者がだんだん低迷してきた

②報告はできるが、市民の生の意見を聞くことができない

以上の結果から、今後の議会報告会の在り方について「再考が必要」との結論に至る。

その後、令和 5 年度に議会基本条例を検証する中で、議会報告会の開催に拘らず、市民との情報共有や意見交換など双方向の関係づくりを検討していくこととした。現在検討中のままで、以後の議会報告会は開催していない。

●再考の考え方

1) 内容；何を報告するか

2) ターゲット；誰に向けて奉告するか

3) 方法；対面式かオンラインか、開催場所や時間などをどうするか

4) 議会広報広聴の充実のための委員会について

・副議長が 3 委員会のオブザーバーとして委員会の連携を図る。

① 議会広報誌編集委員会②議会 PR 委員会③議会 ICT 委員会

➤議会 PR 委員会について

▶議会全体の PR 活動の戦略を立て、具体的手法について協議

▶年 1 回以上、市民との交流を図る事業を実施

▶議会広報し誌編集委員会及び議会 ICT 委員会の活動状況を把握し、PR 戦略との整合性を図る

▶PR 戦略の進捗管理を行う

5) 対面方式の議場について（平成 27 年 1 月現庁舎供用開始）

・議長席；議員と執行部の両方が見える

・演 台；議員と執行部の両方に向けて発言する

・質問席；議員が執行部に向けて質問する

・答弁席；執行部が議員に向けて答弁する

●感想；議会の存在価値を高めようとする活動を着実に実施されており、今後の私の議員活動に対する刺激となった。

特に伊万里市議会の議会基本条例は当時の議員がご苦労されて、平成 28 年に制定されたようだが、条文と実態に差異が発生しており、定期的な検証が必要と判断する。

今後、議員活動の根拠となる、条文と実態の整合性を検証する「しくみ」の構築が必要不可欠である。

令和 7 年 伊万里市議会議会運営委員会行政視察 所感

令和 7 年 8 月 25 日

松尾 伸人

8 月 4 日（1 日目） 志摩市議会（三重県）

今回の行政視察に先立ち、十数項目の質問事項を事前に通告させて頂いたが、その一つ一つに、議会運営委員長自らが、口頭で回答する形で市議会運営の説明が行われた。

恐らく先方は、市議会の行政視察なので、議員中心の説明の方がベターだと判断されたのだろうが、口頭で説明されても、こちらもメモも追い着かず、質問の意図が十分に伝わらずに明確な回答がなかった項目が数項目あった様に感じた。

その事に関しては、質問の主旨に沿った資料を作成して、それを元にした説明を行うか、質問に対する回答文を記載したものを読む形での説明が望ましいと感じた。

具体的には、議会運営の参考になると思われたオンライン会議は実施されておらず、議会報告会や意見交換会に関しても実施していないとの事であった。但し、既にタブレット端末は導入されていて、個人端末の使用も可能、ペーパーとの併用期間もあったが、現在は、全てがデジタルベースの議会となっている点は特筆に値すると思われた。

また、志摩市議会は予算決算常任委員会という形で運用されており、我々の様に分科会方式ではなく、全員（全体会）で、款、項に沿って、1項目ずつ進めて行くという事であった。後述する半田市議会も同じ様に全員で行うとの事であったが、この周辺地域の市議会では、分科会方式を取らない事が主流なのかも知れないとも感じた。

その他特徴的だったのが、議会運営委員会の任期が 1 年であり、平成 28 年の特別委員会での検討の末に 1 年になったとの事で「会派組み直しの影響を受けた」との説明であったが、どういう事なのか、個人的には上手く理解できなかった。

あと、議長の任期は 2 年、副議長の任期は 1 年という事であった。

人口 4 万 5 千人、議員数 18 名と、伊万里市とほぼ同等か若干小さい規模の市ではあるが、平成 16 年に 5 つの町が合併して誕生した市であり、そういう意味では、市、市議会ともに歴史は伊万里市より浅いと言えるが、伊勢志摩国立公園に市の全域が含まれる等、観光資源としては豊かではあるものの、水産業では、海水の温暖化による影響が大きい事もあり、漁獲高は大きく減少しており、委員長のお話によると年々深刻さを増しているとの事であった。

8 月 5 日（2 日目） 一宮市議会（愛知県）

決算委員会を特別委員会ではなく、通常の補正予算の委員会付託と同じ形で行われている事、決算委員会としては企業会計は開会日に対し、一般会計が閉会日に委員会付託が行われ、従って、決算委員会は閉会中審査となる事、決算特別委員会の事前準備として正副委員長に委員会で説明する同じ内容の説明会を行っている点が特徴的と言えると思う。

決算委員会に関して、常任委員会で正副委員長が質問できないルールである事と委員会

をスムーズに運べるというメリットがあるのは理解できるが、執行部としては同じ内容を二度説明しなければならず、文字通り二度手間となるので、それはそれでどうなのか、という疑問を持たざるを得なかつた。

また、委員会をライブ配信されている事、主権者教育の一環として、小学生の議場見学や一般質問の模擬体験の実施は、伊万里市議会としても参考になると思うが、議場演奏会については、その時の議長の意向によるもので、必ずしも毎年実施しているという事でもないとの事であったので、主権者教育の中の一つの題材、議場への来場者を増やす意味も含めて考えられなくもないが、必要性ややり方の、十分な検討が必要であろうと感じた。

説明は議会局にて行われたが、こちらからの質問事項一つ一つに回答を付け、それに補足する形で行われたので、理解しやかつたと思う。

8月6日（3日目） 半田市（愛知県）

説明は、議会事務局課長と議会運営委員長、副委員長で行われたが、こちらからの質問事項に沿った形での資料（Power Point）を別に作成され、その資料により説明されたので、こちらもとてもわかりやすかったと思う。

常任委員会は閉会中の調査テーマを設定して、視察や勉強会を実施しながら1年で政策提言をまとめ、実際の成果例もあるという事であった。この調査テーマの設定に関しては、執行部も参加して決めていたため、結果として提言された政策案も執行部が取り組みやすく、議会側は一般質問でのフォローもしやすいとの事であったが、この部分は参考になると思う。ただ、そもそも、常任委員会は議会から付託された議案の審議が最優先である事を考えると、委員会の業務としての負担が気になった。

また、議会による事業評価を行われており、一見、非常に良い取り組みの様に思えるが、各常任委員会に一つの事業に絞って行われているという事であり、執行部としては廃止したい事業を挙げて来る傾向にあるとの事で、そうであれば、伊万里市議会では常任委員会、決算特別委員会で補えるのではないかと感じたところでもあった。

あと、議会報告会はYouTubeで行っていた（R5年）が、視聴者数の減少により、R6～7年は未実施で再考が必要との事、議会広報広聴の充実のための議会広報広聴誌編集委員会議会PR委員会、議会ICT推進委員会が組織され取り組みが行われている事、意見箱については現在は取り止めている事の説明があった。

この半田市議会の特徴は、何でもフットワークを軽くして「まずやってみて、よくなかったら修正をするか取り止める」との姿勢にあると感じた。

我々の委員の中には、この半田市議会が、対面式の議場を含めて「議会のあるべき姿」と評価する方もおられる。この見方については、私自身の経験と勉強が不足しているからかも知れないが、「人によって異なるのではないか」と思ったのが正直なところであった。

視察全般

今回視察した市議会の内、一宮市議会、半田市議会の議長の任期が1年という事であり、愛知県内全てではないが任期1年が多数派という事に驚くと共に、以前議会活性化特別委員会で視察した市議会を含めて、開かれた議会とするための市民との意見交換会については市民側の出席者の固定化、減少という理由で、「決して有効な策とは言えない」という理由で、現在は実施していない議会が多い様に感じた。

以上

議会運営委員会行政視察報告書

前 田 邦 幸

視察日程 令和 7年 8月 4日～ 8月 6日

参加者 委員長 香月孝夫・副委員長 力武英一郎

委員 塚本博幸・松尾信人・前田邦幸・井手 純・盛 泰子

① 8月 4日 三重県志摩市議会 (志摩市役所)

視察目的 志摩市議会運営の取り組みについて。 (議員定数 18人)

議会の在り方として情報共有、オンライン会議、機能強化など議会改革で進んでいる議会として選定した。

議会視察所見

インターネット配信の経過にしては、平成 16 年第 3 回議会から、本会議のインターネット配信を事務局職員で行っていた。平成 23 年改選後の議会で広報委員会を常任委員会とし、これと同時に常任委員会もインターネット配信している。情報共有する為にタブレット導入が平成 30 年にされているのも驚きでした。

選挙や議会に关心のない若年層へ少しでも多く広報し、幅広い年齢層にもっと知っていただく方法として、LINE や Twitter・Facebook など SNS の利用やスマートフォンなどの活用拡大など、調査研究の必要性を感じた。

② 8月 5日 愛知県一宮市議会 (一宮市役所)

視察の目的 議会運営の取組について。 (議員定数 38名)

議会視察の所見

常任委員会の運営は予算審議対しては分割付託されており、1 日目に予算審議、2 日目に予算

審議以外を行う。本会議や各委員会もユーチューブでライブ配信を行なわれたが、委員会は1週

間前に正副委員長と執行部がリハーサルを行なわれていた。

主権者教育は小学生の議場見学や高校生プラスバンド部による議場演奏会が実施されていた、

伊万里市議会もするべきと考える。

③ 8月6日 愛知県半田市議会 (半田市役所)

視察の目的 議会運営の取組みについて。 (議員定数22名)

議会視察の所見

政策提言については、議会閉会中にテーマ決定し（5月～6月）、委員会を何回か開催し、

視察や勉強会しながら調査研究（6月～1月）提言まとめ（2月～4月）、本会議で報告、提言（5月）、半田市は議長、副議長、各常任委員長の任期は1年ですから、5月の臨時議会でそれぞれの委員会が決まるので調査テーマは1年で設定する。1年だと、委員長が腹案をもちつつ、委員会で協議し、テーマを設定している。

3市行政視察の所見

- ① インターネットで取り出し、議会概要による文字の理解とは違い、行政視察に行き、直接に顔を見て話す事で大分違うことにおどろき。
- ② 今回の行政視察で感じた事は新たな改革をする時は時間をかけ、議論をする事が結果的には良い物が出来る。
- ③ ペーパーレス、タブレットを使ったアプリ電子書棚での議案配付、議会は直ぐにも実行すべきだと考える。
- ④ 議会基本条例や議会要覧も改選後に見直すかを検討すべきと考える。

令和7年度議事行政観察 所感

No. _____

井手 雄

志摩市議会

全体的にICTを活用して、電子版資料、議会報告会や意見交換会などにオンラインツール、SNSを活用した市民向けの情報発信などで議会情報化/推進部会を設立されそれを中心に活動されていました。

デジタルデスクの導入、議事録の電子化、タブレット端末導入。

ペーパレス化については、初めから全て電子化ではなく常に議論は思う(一度やって見た事)が印象に残った。

全体的感想にて、ある部分は進んでいますが、他方はまだゆっくりしているところもあると感じた。

ICT活用に関する点は、やはりコアな人が先導と感じた。

議会報告会や意見交換会は必要に応じてやっているが、
(報告会は令5年8月12日～廃止)

準備にかかる時間と集まる人々の効率があまりない。

府産のアワビ、サザエなどを議題で取扱う中で、今の領先業の方は、他の地方から仕入れてやっている海苔工場2~3箇

一宮市議会

井手 勲

まあやし、印象として豊川市の中枢者陣として地域の空き地に
合った質の高い行政サービスが提供されていふ感じがした。
(市議会に入れた感想)

(1) 議会運営について

① 常任委員会の日程及決算審査会議日会(日で3回)は
(但し、開会時間が長くなる傾向がある)との説明

② 決算審査は常任委員会に所管する予算項目ごとに分割付託する

③ ライフ面(信)については、ユーチューブでのライフ配信と賃貸(1名)で
使っていて経費は発生していない。
委員会開催中は2ヶ月担当1名とカラオケ担当1名で3回
アーティストは予算12万円、音響設備設置の保守工賃費用は
24万5000円が発生している

(2) 主な教育について

① 地元高校アスパルハートによる講演会を実施

② 講場見学(小学校) 9月~翌月 → 6年生3校 7年生2校

「子ども議会」は80周年記念事業で教育委員会が主催

足立市議会

井手 熊

本日、私達委員会のために資料作成して(ペーパー1枚)おこなった事が、
またたく間に迎えられている感じで好印象

(1) 政策提言について

① 1年以内に於いて委員会のテーマ決定し、行財政監視(6月-10月)
調査、研究して、提言(2~4月)本会議で報告・提起(5月)

◎ 提言に対する執行部の回答は次のとおり

(2) 議会監査評価について

① 7月に行う決算審査にあたり、執行部が実施した事業の評価を行
う。年度別予算と実績をセヨウの一つは当市と並行不規則は不可

(3) 議会監査会の開催

○ 議会監査会のあり方について再考が必要

1. 内容:何を監査するか

2. 会期:誰に向けた監査をするか

3. 方法:封筒式かオンラインか開催場所を如何どうする

令和5年度に議会基本条例を改正する中で市長との監査共有で
意見交換など双方の関係ナリと検討していくことと

以後開催しない

(4) 予算の審査について

① 予算審査は、補正、当初予算とも、3つの常任委員会に分割討論
する

2025年度 議会運営委員会視察 所感

盛 泰子

① 三重県志摩市議会 8月4日（月）

内 容	所 感
議会運営の効率化やICTを活用した議会運営のために、ipad導入前から情報化推進部会で勉強会を行い、ipadを使ってもらうような雰囲気づくりをされている	伊万里もここから始めて、誰もが不安なくスタートできるようにしたい
オンライン会議を可能とする条例改正はしたが、必要性が生じた時に判断することとし、実績はない	「初めて行うのが必要性が生じた時」だとすると、事前に予測できない事態が起きる可能性がある。伊万里では条例改正後、速やかに「お試しのオンライン会議」を数多く行い、不安なく使える状況を作つておくべきだと思った
議長を除く19人全員で予算決算常任委員会を構成し、審査されている	常任委員会の所管以外についても審査に加わるため、全員での審査もありかなと感じた
議選監査委員は、「決算委員会に入るが、質疑は行わない」とのこと。	このようなあり方には初めて出合ったが、監査の立場で各事業に対する議員の評価を知る事は意義深いのではないかと思った。
議会基本条例第26条2項に、「一般選挙を経た任期開始後速やかに、この条例に関する研修を行う」とされ、2期以上の議員が講師となって行っている	伊万里市議会でも全議員で基本条例の内容を認識し合う必要を感じているので、次の選挙までに詳細を決めるべきだと思った
議場を拝見した際、議長の両隣に事務局職員席があった	これまでに数多くの議場を見てきたが、事務局長が議長の左側にいるか右側にいるかの違いはあるものの（その違いの理由は今でも不明だが）このような姿は初見であり、とても驚いた（写真①）
毎議会の開会日に仮議長の選出をされている	毎議会で行うかどうかは別として、伊万里市議会でも万一に備えて早急に行うべきだと思う

② 一宮市議会 8月5日（火）

内 容	所 感
基本条例第16条3項に規定する閉会中の所管事務調査については、選挙後の臨時議会で各委員長から申出を提出し議決する形でされている	伊万里市議会でも議決を毎回行う必要があるのか考えたい
議会事務局の名称を「議会局」に変更されている	以前からその必要性について考えていたが、改めて説明を受けた内容に深く賛同する。伊万里市議会でも議論すべきと考える

③ 半田市議会 8月6日（水）

内 容	所 感
常任委員会、特別委員会の任期は1年で、委員改選後すぐ（5～6月）に閉会中の調査テーマを決定し、以降1月までに視察や勉強会を行って調査し、2～4月に提言をまとめ、本会議で報告・提言（5月）。内容によっては早めに行うことも。 テーマ決めの際には正副委員長が担当部課長と協議。特別委員会のテーマは、3常任委員会をまたぐ内容とし、議会運営委員会で決定。提言に對して執行部からの回答を求めるものではないが、「事業化に踏み出すきっかけになる」、「実施予定の事業について並走して後押しをする」	まさに委員会の重要性を具体化している事例であり、伊万里市議会でも早速取り入れたい内容である
特に感動したのは、議場の在り方であった	私が理想とする形、即ち議員席と執行部席とが対面し、その間に議長席がある（写真②）。まさに二元代表を具現化しているこのような議場を理想と思いながらも、実際に見るのは初めてであった。ここ数年で佐賀県内において庁舎を建て替えた市町が5箇所ほどあるが、そのいずれもが旧来型（国会と同じスタイル）であり、千載一遇の機会を逃すことを他所事ながら残念に思っていた。

伊万里市の庁舎建て替えがいつになるか分からぬが、半田市議会のような形式、あるいは議場としてだけではなく多目的に使えるような設えを考える議会であってほしいと強く思った。

写真①



写真②

